

1 題材名 「あつめて見つけて光のカプセル」

2 題材について

光は、人間の目を刺激して明るさを感じさせるものである。光があることによって、人間は太古の昔から「明かり」を生み出す道具を日々の経験から作り出し、生活を豊かにするためのなくてはならないものであった。そして「明かり」は昔から日本の生活のそばにあり、提燈や灯籠などの照明は和紙を用いたやわらかな光を生み出した。これらの日本の照明はやわらかな光を生むとともに影もつくり、絶妙なバランスを生み、現在でも魅力的な明かりを生活環境に提供してくれている。

そこで、日本で昔から育てられた文化である光を題材に、子どもたちに「光」を一つの材料として捉え、その特徴を生かした造形活動を取り組ませたいと考えた。また、光の特徴を十分に生かす材料を選択し、その効果的な使い方も体得できるようにすることがねらいである。そして自分の思いを集めた光とともにカプセルに閉じ込めるように、という願いから題材名を「光のカプセル」と名付けた。カプセルとは「小箱」という意味でもある。

本題材は、学習指導要領の第3学年及び4学年の目標「(2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。内容 A (ウ) 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」にあたる。

ここでは、身近な材料で自分の思いを色や形、組み合わせの活動の中で「光と影」の美しさが効果的になる飾りをつくることを楽しんで取り組ませたい。片面ダンボールや厚紙で好きな形をつくり、それに色セロハンを貼り、光に透かした効果を試しながら色を重ね、光を取り込んで絵を描くように作品づくりに取り組ませたい。また、光に透かした色の微妙な変化を感じ取り、自分の思いを伸び伸びと表現する力を育てたい。

色セロハンは、工作で扱うカラフルな材料の種類の一つで、子どもたちにとって身近に手に入りやすい素材である。そこにトレーシングペーパーという物が半透明に見える紙を使い、色セロハンを通した光と影が表す色の美しさや形の面白さを生かした工作をつくる。子どもは、ビーズやビー玉など透けたり反射したりしてキラキラする材料が好きである。色セロハンもその一つで透かした様子をいつまでも眺めたり、1枚、2枚と重ねると色が混ざって光の見え方も変わり、動かすことによって影をつくったりする変化を楽しむことができる。以上のように、材料の特徴を理解して光と影の美しさを感じ取る活動ができるようにしたい。そのために、柔らかな色セロハンを何枚か組み合わせることで光の混色を楽しませ、その上にトレーシングペーパーを重ねることで自分の気に入った柔らかな色の美しさを発見できるようにすること、色セロハンの扱い方や効果を試しながら素材の特徴を知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動をねらいとしている。子どもたちが様々な材料を組み合わせ、自分の感覚や活動の中で見つけた美しさとつくりたい思いが生かされた作品になるよう取り組ませたい。

製作にあたっては、以下のような手順を取る。はじめに空き箱を用意し、台紙となる紙に表したい形に切り抜いてトレーシングペーパーを貼る。そこに片面段ボールや厚紙で好きな形をつくり、色セロハンを貼りつけ、光を通した色合いを見ながら色の重なり具合を調節し、自分の気に入った色合いを見つける。そのためには、事前に普段の生活の中で光と影が生み出す美しさを体験することが大事である。例えば鏡や水に反射する光や様々に変化する影のおもしろさ等の経験を元に「光を透過したものの美し

さ」に気づくであろう。その上で、材料（身近にある材料）集めをする。子ども自身で身のまわりにある材料に注目して集めるという活動を大事にしたい。光を美しく透過する材料は色セロハンのほかにもペットボトルや卵パックなどの透明容器、色アクリル板、おはじきや透明ビーズやお菓子の包み紙など身近にたくさん見られる。これらに光を当てたときの美しさだけでなく、いくつかの色の重なり合いのできる新たな不思議な色の世界を知るであろう。さらに、色セロハンの特徴を知ることによって色の混色や映りこんだ色の影を楽しむなど、扱い方の楽しさを感じ取りながら表現活動に取り組むであろう。

本学級の友だちはこれまで、紙工作の題材で紙皿を折って切り込みを入れ、振り子のように動く仕組みから「どんなものが動くと楽しいか。」について発想を広げ、動きを楽しむ工作をつくるという活動を経験している。身近な材料で折る、折り返す、という働きかけで生まれる形の変化を色や形、組み合わせなどを楽しみながら活動する姿が多く見られた。反面、工作を苦手と答えた子の理由に「何をつくれればいいか、うかばない。」や技術面での不安からくる「やり方がわからない。」「貼り方を間違えたら不安。」などと挙げる子が3人いた。本題材で工作を苦手とする子のつまずきの一つとして考えられるのが、「カッターの使い方」と「線接着」の技法である。この二つについては技術面、安全面にも気をつけて指導を行う。これまで面接着を主に工作を取り組んできた子どもたちにとって、「線接着」という技法にとまどう子もいると思われる。柔らかいトレーシングペーパーに対して片面ダンボール（仕切り紙）や色セロハンを折り曲げてへたらないよう工夫しながら「置く」ように接着する方法を体得できるよう指導したい。そして、接着の前には色セロハンとトレーシングペーパーと色の重なり具合と形の見え方を、自然光にあてて必ず確かめることを促すようにする。

作品の展示方法は、光の美しさを十分に楽しむことができるように、校舎の東と西階段の側の大きな窓を利用して展示を行う。展示の際は、一言カードなどをおいて作品の感想を書いてもらえる箱を用意し、つくった子どもたちへの励みにもなるようにしたい。また、学年間での展示の際は、自然光ではなくスクリーンを使って後方から光を照らし、より鮮やかな作品の展示方法で交流を図りたい。校内全体で作品を楽しみ、認め合える環境でお互いの作品を鑑賞し合い、表現の楽しさを味わえるようにしたい。

### 3 題材の目標

- 光と影の美しさや面白さを生かして、飾るものをつくることを楽しむ。（造形への関心・意欲・態度）
- 紙テープや色セロハンの形や色の組み合わせを考えて、飾りを構想する。（発想や構想の能力）
- 自分なりのイメージになるように材料を試してみたり、作り方を変えたりして工夫する。  
（創造的な技能）
- 自分や友だちの表し方の共通点や違いを見つけながら共感して楽しんだり、自分の表し方に取り入れたりする。（鑑賞の能力）

### 4 材料

- 【教師】色セロハン、トレーシングペーパー、片面段ボール、接着材（プッシュボンド）  
（道具）カッターナイフ、カッターマット
- 【児童】空き箱、光を透過したらきれいだと思うと思われる身近な材料、はさみ、鉛筆

### 5 指導計画（5時間扱い）

#### ①発想（1時間）

- トレーシングペーパーや色セロハンなどで作り出す光と影の美しさを味わう。
- 作品の大まかなアイデアや構想のヒントになるものの意見を出し合う。

## ②構想（1時間）

- 作品の仕組みを理解し、色セロハンの色の重なり具合を試しながら気に入った形を考える。
- カッターの使い方を知り、段ボールや厚紙を切る。また線接着の方法を知り、行う。

## ③表現（2時間）・・・（4/5）

- 材料を光にかざして美しさを試しながら、形や色の組み合わせを工夫してつくる。

## ④鑑賞（1時間）

- 作品を窓などに飾り、光と影の美しさを味わい自分や友だちの作品のよさや見つける。

## 6 本時の指導（4/5）

### （1）本時の目標

○材料を生かして、自分の作りたい形や光に透過した美しさを見つけながら作品をつくる。

### （2）仮説との関わり

本学級の友だちは、本時までカッターの使い方と線接着の技法を繰り返し練習してきた。カッターの使い方に関しては、刃の出し方や正しい持ち方、切るときの力の入れ具合など、切る紙の厚さに慣れるよう練習した。また、直線に切るほかに曲線を切るときの力の入れ具合や、刃の方向に気をつけて少しずつ切ることでも段階をおって取り組んだ。線接着の技法については、まず片面段ボールなどの仕切り紙に接着剤をどのくらいの量をつければいいのか、の加減が難しく感じた子どもも少なくなかった。しかし、回を重ねるごとに接着材の量感に慣れ、仕切り紙がきちんと自立するよう工夫して、つくりたい形に整えることができた。少しずつ線接着の技法を体得し、思い思いの形に仕上がったことに楽しんで活動ができた。

しかし、技術面での補強を重ねた上で自分のつくりたいものを形にできるか、というそれぞれの発想にゆだねられるところが大きい。特に発想の段階で頭の中で思い描いたものをスケッチで描くことができ、実際に土台となる仕切り紙を貼って色セロハンを貼り合わせることは抵抗なく進められても、色の重なり具合や光を通したときに効果的になっているかを確かめる必要があると考えられる。そこで、自分の表したいことを効果的に表すことをめざすためには、以下のような手立てをとる。

○光を透過する効果を確認する場を設けることで、豊かな発想が広がり、伸び伸びと表現させる。

本時では、色セロハンを主に材料を選び、自分の思いが表せるよう工夫してつくる時間である。セロハンの重なり具合で変化する色が光を透過して見てみるとどうなるのか、を一つ一つ確認しながら進めていくため、光の入る窓の前に作品をかざして見るができるようにする。光といっても自然光なので、電球のように明るいとは言い難い。しかし、窓に近づければ近づくほど色のはっきりして見えることや、箱の角度を変えながら光にかざしてみる楽しさの中で新たな色の重ね方、貼り方の発見も期待できるだろう。伸び伸びとした表現に幅が広がり、光と光がもたらす影の様子を理解しながら光の透過する効果が生かせるよう、広く大きな窓を使うことが大事ということを感じさせる。貼っては見て、貼っては見て、をくり返すことによってより効果的な表現を自分で見つけられるようにする。

○光の効果を確認する物の工夫

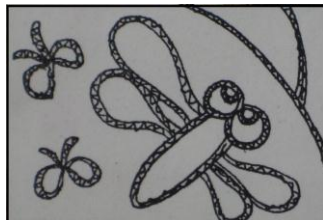
光を扱う題材の価値を理解するために、色セロハンの様々な色の重ね方で見え方が違うことや、光を通す材料（透明容器や卵パック、クッションシート、おはじき、ビニールひも、ビニールネットなど）をトレーシングペーパーにつけてどう見えるか、が一目でわかる資料を掲示する。その見え方がどのように貼り合わせているかがわかるよう、裏面の仕組みを随時見てよいことも伝えておく。表面の見え方が裏面でどのような貼り方をすれば効果的なのか、その仕組みを理解し自分の作品に生かすことが大事

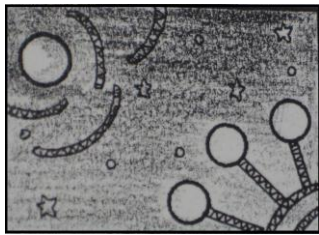
だと思われる。トレーシングペーパーに直貼りするやり方や、仕切り板の高低さによって貼った色セロハンの見え方が変わることも、製作過程で気づくようにしたい。また、つくっているときは表のつもりで進めていても、ひっくり返して光の透過を確認するので、つくっているものは反転する。例えば数字など入れると反転してしまうため、見え方が逆になることもふまえてつくることをおさえる。

さらに、材料を光に透かしながら製作を進めているときに新たな発想が生まれることもあると思うので、仕切り紙になる片面段ボールを切ったものも用意しておく。発想を広げて、新しく思いついた形をつくり、色合いをみながら材料を選んでつくり直し、つくり変えることを認めて支援していく。

(3) 展開 (4 / 5)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (◆)	資料・教具
<p>1 学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○材料や表現方法によって、より発想が広がるように声かけをする。また、子どもの意見を肯定的に取り上げ、イメージをみんなで共有できるよう、詳しく話すことを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいだなあと思う色の組み合わせを考えて試してみよう。」</li> <li>・「トレーシングペーパーに色セロハンを近づけたり遠ざけたりして色見え方を確かめてみようね。」</li> </ul>	<p>色セロハン、透明容器、はさみ、プッシュボンド、片面段ボール、おはじき、ビーズ、スズランテープ、クッションシート、光を透過する材料を貼った資料、色の重なり方の違いがわかる資料</p>
<p>美しい色と影の世界になるように工夫してつくろう</p>		
<p>2 自分が表したい世界に合う材料の選定とつくり方を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やわらかい感じにつくりたいから綿を使おう</li> <li>・おはじきを星に見立てて使おうかな。</li> </ul>	<p>◆自分のイメージした物をつくることに興味や関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)</p> <p>○一人一人の子どもの感じ方や表現のよさを認めて声をかける。表現方法にとまどっている子どもには具体的なアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色の組み合わせに迷っている子どもには、色見本の掲示を見て仕組みを確認するように促す。</li> <li>・色セロハンの貼り方はおおまかに切って貼ってよいことを伝え、貼っては見てをくり返し、試しながらつくるよう声かけをする。</li> </ul>	
<p>3 光を透かして作品の美しさを味わったり、友だちの表現の工夫を見つれたりしながらつくる。</p>	<p>◆自分の作りたいものに合った材料や用具を選び、思いを広げながらつくることのできるか。(創造的な技能)</p>	





- 3 自分の作品や友だちの作品を見合い、工夫したところを紹介する。
- ・夜にかぶ月みたいだね。
  - ・セロハンの重ね方が工夫されているね。
  - ・夕焼けのようなオレンジ色を上手につくっているね。
- 4 次時の活動を確認する。

- 光を透かして実際に美しさを味わいながら作ることで、より表現を深めたり工夫したりできるようにする。
- 面白い発想や形を工夫しているところを具体的に賞賛する。
  - ・「いろいろな材料を組み合わせている、海の中に光がさしてるみたいできれいですね。」
  - ・「色の重ね方が工夫されていて、シャボン玉のような色ができましたね。」
  - ・「いろいろな形の仕切り板に合わせたセロハンの色の組み合わせが面白いね。」
- 友だちの表現を参考にし、自分の表現がさらに豊かになるようにする。
- ◆活動の過程の中で、自分の表現をさらに豊かにできたか。(発想や構想の能力)
- 自分の頑張ったところや工夫したところを紹介したり、友だちの良いところを探して発表したりする。
- ◆お互いの良さを感じることができるか。(鑑賞の能力)
- つくった作品の鑑賞会を行うことを伝える。